

学校、家庭、地域社会の連携の推進

家庭や地域と連携した取組を推進するためには、食育の目標や具体的な指導内容・方法、学校で指導を行う時期等について、あらかじめ保護者や地域の関係者等に説明し、理解を得ることが有効であり、その意味でも食に関する指導の全体計画の策定は重要です。

「港区学校教育食育指針」では、5分野から新学習指導要領の「カリキュラムマネジメントの推進」に沿って、次の6つの視点を共有しながら、学校、家庭、地域と連携して効果的に食育を推進します。

成長

①何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）

- ・ 自分の体型を客観的に把握できるようになり、健康な身体を作るためには日々の生活習慣が大事であることが理解でき生涯の健康づくりにつながるようになる。

②何を学ぶか（教科を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

- ・ 身体が成長するためには、「早寝・早起き・朝ごはん」に代表されるような正しい生活習慣（生活リズム）と食事・運動・睡眠が大切であることを学ぶ。

③どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

- ・ 小学1年生から国語や理科、体育をはじめ様々な教科において、上記のテーマが易しく取り上げられている教材を用いる。

たとえば、

- 東京書籍の小学1年生の国語に「サラダでげんき」という角野英子さんの童話が載っている。これは指導次第では貴重な食育になる。
- 国語で『「かむ」ことの力』をとりあげる。¹⁸
- 理科は植物や動物、環境、人体など数多くの食育のテーマがある。例) みその話、野菜をつくってみよう、食べ物が身体に入ると、
- ・ 小学校のほけんの時間で「育ちゆく体とわたし」に成長（発育発達すること）の意味と意義をしっかりと学ぶ。¹⁹
- ・ 外部から講師を招くなどしてTTで授業を行ったり、学校保健委員会で講演してもらってもよい。²⁰
- ・ 養護教諭が行う保健指導、担任他のホームルームを活用する。

¹ http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/honcho-e/syokuiku/report_201009.pdf

④子ども一人一人の発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）

- ・ まず「成長曲線を描く」が基本。

⑤何が身に付いたか（学習評価の充実）

- ・ 正しい体型認識と生活習慣（食、運動、睡眠、勉強）が身に付いたかどうか➡アンケート評価

⑥実施するために何が必要か（必要な方策）

- ・ 児童生徒自身の興味を引き出すイベントや教材。
- ・ 同時にこれらで保護者の興味も引くようにする。
- ・ 学校全体が「食の大切さ」をテーマにし、健康な発育発達のために質の良い「食事・運動・睡眠」が必要であるという気運を盛り上げる。

² <http://www2.gsn.ed.jp/houkoku/2004c/04c24/04c24s4.pdf>

³ <http://sendai-c.ed.jp/~saiwai/happynews/index.php?UID=1386225723>

体力

①何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）

- ・ 身体活動を高めるための手段（方法）を理解して行動できるようになる。

②何を学ぶか（教科を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

- ・ 体力の重要性を日々の生活習慣から学ぶことを基本とし、食事や睡眠との関連を深め学ぶ。

③どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

- ・ どのような身体活動がより多くエネルギーを消費するかなど、イラストや映像を用い理解を深める。できれば、心拍数計など客観的・視覚的に児童・生徒が理解できるような教材を用いることができればより望ましい。

④子ども一人一人の発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）

- ・ 個々の生活パターンを把握した上で、身体を動かす時間帯を児童・生徒の目線を大事にしながらか実施可能な時間帯を見つけ支援する。

⑤何が身に付いたか（学習評価の充実）

- ・ 身体を動かすことについて、様々な活動からできるようになったか、アンケートを用い評価する。

⑥実施するために何が必要か（必要な方策）

- ・ 学校保健委員会等で保護者向けにわかり易く説明をしたり、簡易リーフレットを配布するなどして、学校内のみならず家庭でも実践できるように働き掛けを行う。他の分野と共通した簡単な記録用紙（実施できたか否かを評価する）を教育委員会主導で用意する。

生活習慣

①何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）

- ・ 良い生活習慣と悪い生活習慣を判断できるようになる。

②何を学ぶか（教科を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

- ・ 正しい生活習慣が健康や、勉強・運動の基本であることを、色々な教科から学ぶ。

③どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

- ・ 朝食や朝ごはんの解説説明で、食事の内容まで踏み込む。生活習慣病、健康な生活。病気の予防

④子ども一人一人の発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）

- ・ クラブ活動・塾・習い事など、一人一人、生活パターンが異なるので、それぞれに合った合理的な支援をおこなう。

⑤何が身に付いたか（学習評価の充実）

- ・ 正しい生活習慣（食、運動、睡眠、勉強）が付いたかどうか、アンケート評価。

⑥実施するために何が必要か（必要な方策）

- ・ 特に父親や母親に分かりやすいプリントを作る。生活習慣ができたかの星取表をつくるなど。

食生活

①何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）

- ・ 食事に関わった人々と自分の身体を考え、食事をとる子ども
- ・ または、（感謝の気持ちと栄養バランスを考え、食事をとる子ども）

②何を学ぶか（教科を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

- ・ 食事からとる栄養が自分の身体の成長や健康維持増進にどうかかわっているかを知る（栄養バランスの理解）
- ・ 自分が食べている食事がどのように成り立っているか、生産・流通なども含めて知る（感謝の気持ち）
- ・ 一人で料理を作るスキルを身につける（調理スキルの向上）
- ・ 食事を通じたコミュニケーションスキルを身につける（共食の大切さにつなげる）

③どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

- ・ 関連する教科科目および給食時間
- ・ 家庭への働きかけ

④子ども一人一人の発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）

- ・ 個々の状況に加え、地域の特徴を踏まえた支援

⑤何が身に付いたか（学習評価の充実）

- ・ 今回行ったのと同じ調査内容でアンケートを実施

⑥実施するために何が必要か（必要な方策）

- ・ 家庭への情報提供と理解・協力も必要であるが、
- ・ それ以外に、すべての教員が目指す方向性について共通認識を持ち、目標達成に進むこと

食文化

①何ができるようになるか（育成を目指す資質・能力）

- ・ 日本独特の食文化の知識を広め、これに纏わる伝統文化との関連を体験によって習得し、日本人として誇れる人間形成に役立てることが出来る。

②何を学ぶか（教科を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

- ・ 食文化からそこにはらむ日本の伝統文化を学び、日本人としての品格や、大切にす

る心を育む。

③どのように学ぶか（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

- ・ 本物の和食器(陶磁器・漆器等)を使用した給食から、その扱い方を教え、使用方法と日本人としての品格(所作・ふるまい方)の有り方を学ぶ。
- ・ 一汁三菜の配膳を通して食器の用途の違いを明確に学び、食器にあわせた盛り付けや風情が日本の伝統的な食文化であることを学ぶ。

④子ども一人一人の発達をどのように支援するか（子どもの発達を踏まえた指導）

- ・ 現在の教育方針に応じた範囲の中で学年ごとに連携し、ワンランクアップの知識を身に付けられるように支援する。

⑤何が身に付いたか（学習評価の充実）

- ・ どこで食事をしてしても恥ずかしくない食事の礼儀作法と、外国人にも誇りを持って説明・対応できるような日本の伝統文化の知識。

⑥実施するために何が必要か（必要な方策）

- ・ 特に父親や母親に分かりやすいプリントを作る。学校だけでなく、家庭でも身に付けられるようになれるマニュアル。
- ・ 現状の給食では、一部の小学校において陶磁器や漆器が取り入れられているが、漆器に値する汁椀は揃えることが必要と思われる。